

漢史一斑

小永井八郎編

三

179			
2			
54			
四册	四號	一	函

本

K11022	
54	
3	

明治十年三月

漢史一斑

文

部
省

漢史一斑 第三卷

明治十年圖書局發行

小永井八郎 編

宋紀

趙興宗
安至
臨安
都

郡ノ人、太祖ヨリ、欽宗ニ至
都ス、高宗南渡ヨリ、帝昀

太祖

皇帝

諱ハ、經、宿、太、散、セ、人、香、孩、兒、ト、稱、ス、

周恭宗訓元年是歲周太祖趙周ノ殿前都點檢趙

匡胤皇帝ト稱シ、國ヲ宋ト號ス、周主宗訓ヲ廢レ

王トス、周主開寶六年ニ初鎮定二州言フ、此

契丹ト入寇スト、周主匡胤ヲ遣リ、兵ヲ率井

ヲ禦カシム、都下謹言ス、點檢ヲ冊シテ天子

漢史一斑 第三卷

トセント、又日下復一日アリテ黒光相盪スヲ見
ル者アリテ曰ク、此天命ナリ、是夕大軍出テ、陳
橋驛ニ次ル、將士相聚リ、黎明ニ匡胤カ寢所ニ逼
リテ曰ク、諸將主ナレ願クハ大尉ヲ策レテ皇帝
トセシ、黃袍早ク已ニ身ニ加フ、衆羅拜レテ萬歲
ト呼ビ、扶掖シテ馬ニ上セ、汴ニ還リ、崇元殿ニ詣
テ禪代ノ禮ヲ行フ、周ノ昭儀節度使李筠兵ヲ起
シ北漢ニ會シテ宋ヲ伐ツ、宋主自將テ澤州
ヲ圍ミ其城ニ克ツ、李筠之ニ死ス、宋竇儀ヲ翰林
學士トス、宋主宰相ニ謂フ、深嚴ノ地宿儒ヲ處ク

ヘシ、范質等對テ曰ク、儀清介重厚ナリ、卽翰林ニ
入ル、二年、宋ノ太后杜氏歿ス、后疾ム、趙普ヲ召
レテ遺命ヲ受ケレム、宋主ニ謂フ、柴氏幼主ニシ
テ天下ニ主タリ故ニ汝能、此ニ至ル、汝百歳ノ後
光義光美ニ傳ヘテ德昭ニ及ホスヘシ、宋主泣テ
曰ク、敢テ教ノ如クセサランヤ、普誓書ヲ爲クリ、
紙尾ニ署シテ臣普記スト曰フ、三年、東京城ヲ
廣ム、洛陽ヲ西京ト曰フ、宋主諸門ヲ開洞セシメ、
左右ニ謂フ、此我心ノ如シ、邪曲アレハ人皆之ヲ
見ル、乾德二年、前年荆南湖南平ク、宋趙普ヲ同平章事ト

ス、宋主徽行ス、一日大雪アリ、夜普ノ門ヲ叩ク、普
惶恐拜迎シ、炭ヲ熾キ、肉ヲ焼ク、普ノ妻行酒ス、因
テ與ニ太原ヲ下ス、計ル、普曰ク、太原ハ西北ニ
當タレリ、既ニ之ヲ下セハ、我獨邊患ニ當ラン、諸
國ヲ削平スルヲ俟ツニ如カス、三年、宋ノ王全
玘蜀ヲ伐シ、蜀主孟昶降ル、四年、宋ノ竇儀卒ス、
初宋主宰相ニ命シ前代未有ラサル年號ヲ擇ス、
蜀ヲ平ルノ日鏡ヲ得タリ、乾德四年鑄ルノ字ア
リ、儀ニ問ス、儀曰ク、蜀主王衍此號アリ、宋主歎レ
テ曰ク、宰相ハ須讀書人ヲ用ヰルヘシ、開寶四

年、唐號ヲ江
南ト改メ、宋ノ潘美廣州ニ克ツ、南漢主劉鋹降
ル、鋹國ニ在テ多ク臣下ヲ酖殺ス、一日宋主酒ヲ
賜フ、鋹毒アルカト疑ヒ、盃ヲ捧テ泣ク、宋主咲テ
曰ク、朕赤心ヲ人ノ腹中ニ置ク、安ンソ、此事アラ
ンヤ、鋹ノ酒ヲ取テ自飲ミ、別ニ酌テ鋹ニ賜フ、鋹
大ニ慙謝ス、六年、趙普免ス、普獨相タルコト十
年、頗專ナリ、宋主其第ニ幸ス、會吳越海物ヲ贈レ
リ、宋主問テ之ヲ啟ケハ、瓜子金ナリ、普惶恐シテ
謝ス、後雷德驤ノ子有鄰普ヲ訟テ父ノ冤ヲ訴ス、
德驤ヲ召シテ秘書丞トシ、有鄰ヲ正字ニ擢ツ、普自

安ンセス、出テ、河陽三鎮、節度使タリ、七年宋
曹彬ヲ遣リ、兵ヲ將テ江南ヲ伐ツ、彬ヲ戒テ暴
掠殺戮ヲ禁ス、師進ミテ采石ニ次ル、浮梁ヲ造リ
テ江ヲ渡ル、八年、是歲江南曹彬金陵ニ克ツ、江南
主煜降ル、江南主徐鉉ヲ使ハシ師ヲ緩クセント乞
フ、鉉宋主ヲ見テ論辯已マス、宋主劒ヲ按シ怒テ
曰ク、多言ヲ用弗ス、天下ハ一家ナリ、卧榻ノ側豈
他人ノ鼾睡ヲ容レンヤト城陷ラントス、彬忽疾
ト稱ス、諸將來リ問フ、彬曰ク、惟諸君信誓シ、城ニ
克ツノ日一人ヲ妄殺セスハ、余疾即愈エン、諸將

香ヲ焚テ誓ス、城陷リテ、煜降ル、九年、太宗太平
興國元年
帝崩ス、晋王光義即位ス、帝疾大漸ス、宋后官者王
繼恩ヲ遣リテ皇子德芳ヲ召ス、繼恩徑ニ晋王ヲ
召ス、后晋王ヲ見テ愕然タリ、遽ニ呼テ曰ク、吾母
子ノ命皆官家ニ托セリ、晋王泣テ曰ク、共ニ富貴
ヲ保テ憂ナケン、帝崩ス、后ヲ開寶皇后ト號ス、晋
王即位ス、弟廷美即光美ヲ開封尹トシ、齊王ニ封シ、
兄ノ子德昭ヲ武功郡王ニ封シ、德芳ヲ興元尹ト
ス、太宗皇帝諱ハ炁、太祖ノ弟、初名ハ匡義、光義ト改メ賜フ、太平興國
四年、是歲漢皇子武功王德昭自殺ス、初、德昭帝ニ

從テ幽州ヲ征ス、軍中夜驚ク、德昭ヲ立テンコトヲ
謀ル者アリ、帝聞テ悅ハス、還テ久レク北征ノ賞
ヲ行ハス、德昭爲ニ之ヲ言フ、帝大ニ怒テ曰ク、汝
カ自爲スヲ待ツモ未晚カラス、德昭退テ自刎ス、
後二年德芳亦卒ス、他日帝傳國ノ意ヲ趙普ニ問
フ、普對テ曰ク、太祖己ニ誤ル陛下再誤ルヘケン
ヤ、廷美モ亦遂ニ罪ヲ得タリ、後房州ニ卒ス、八
年、呂蒙正ヲ參知政事トス、朝士アリ指テ曰ク、此
子モ亦參政カ、蒙正佯テ聞カス、同列其姓名ヲ詰
ル、蒙正止メテ曰ク、若一タヒ姓名ヲ知ラハ、終身

忘ルコト能ハサラン、雍熙三年、曹彬田重進潘
美等ヲ遣リテ契丹ヲ伐ツ、岐溝關ニ大敗ス、張齊
賢契丹ヲ代州ニ敗ル、淳和二年、寇準ヲ樞密副
使トス、準事ヲ奏シテ合ハス、帝怒テ起ツ、準輒帝
ノ衣ヲ引テ坐ニ復ラシム事決シテ退ク、帝之ヲ
嘉シテ曰ク、朕カ寇準ヲ得ルハ、文皇ノ魏徵ヲ得
ルカ如シ、三年、趙普卒ス、普嘗テ帝ニ謂テ曰ク、
臣論語半部ヲ以テ太祖ヲ佐ク、半部ヲ以テ陛下
ヲ佐ク、五年蜀盜李順成都ヲ陷ル、宦者王繼恩
ヲ遣リテ之ヲ討平ス、餘黨未滅セス、知益州張詠

恩信ヲ諭シ各田里ニ歸ラシム、且曰ク、前者李順民ヲ脅シテ賊トス、今吾賊ヲ化シテ民トス、至道元年、呂端ヲ同平章事トス、三年、帝不豫ナリ、呂端太子ノ在ラサルヲ見テ、變アルヲ疑ヒ、趣カシテ入侍セシム、帝崩ス、奉シテ即位セシム、真宗皇帝諱ハ恒、太宗第三子、咸平元年、李沆ヲ同平章事トス、帝嘗テ沆ニ謂テ曰ク、人ミナ密啟アリ、卿獨ナキハ何ソヤ、對テ曰ク、臣罪ヲ宰相ニ待ツ、公事ハ公言ス、何リ密啟ヲ用井ン、景德元年、尚書右僕射同平章事李沆卒ス、沆日ニ四方ノ水旱盜賊

ヲ奏ス、王旦謂フ、細事奏スルニ足ラスト、沆曰ク、人主少年ナリ、四方レ艱難ヲ知ラシムヘシ、然ラスハ血氣方ニ剛シ、意ヲ聲色犬馬ニ留メサレハ土木甲兵禱祀ノ事興ラント、大中祥符中、封禪祠祀土木ノ事果シテ興ル、旦歎シテ曰ク、李文靖ハ真ノ聖人ナリ、畢士安寇準ヲ同平章事トス、士安曰ク、準忠義ニシテ善、大事ヲ斷ス、臣カ如カサル所ナリ、契丹主隆緒大舉シテ入寇ス、中外震駭ス、王欽若金陵ニ幸セント請ヒ、陳堯叟成都ニ幸セント請フ、帝寇準ニ問フ、準曰ク、誰カ此策ヲ畫ス

ルヤ、罪斬ルヘシト、遂ニ親征ヲ議定ス契丹澶州ニ抵ル、準帝ニ力勸シテ、河ヲ渡ラシム、遠近御蓋ヲ望見シ、踴躍シテ萬歳ト呼フ、契丹驚愕シテ引キ去ル、既ニシテ書ヲ奉シテ盟ハント請フ、準從ハス、其臣ト稱シ幽州ヲ獻センコトヲ欲スレトモ、帝兵ヲ厭ヒ、且譖者ニ沮メラビ、己ムヲ得スシテ、其請ヲ許ス契丹誓書ヲ來タシ北歸ス、三年、寇準ヲ罷メテ知陝州トス、王欽若ノ譖ニ因テナリ、準陝ニ在リ、張詠適成都ヨリ還ル、準之ヲ送り、問テ曰ク、何ヲカ準ニ教ヘン、詠曰ク、霍光ノ傳讀マス

ハアルヘカラス、準歸テ之ヲ讀ム、不學無術ニ至リ、咲テ曰ク、此張公我ヲ謂フナリ、大中祥符元年、帝澶州城下ノ盟ヲ辱チテ樂マス、王欽若曰ク請フ封禪シテ四海ヲ鎮服シ、外國ニ誇示セン、是ニ於テ天書降ルト稱シ、泰山ニ封シ、社首ニ禪ス、天禧元年、王欽若ヲ同平章事トス、帝久シク欽若ヲ相トセントス、王旦不可トス、欽若相トナリ人ニ語リテ曰ク、王子明ノ爲ニ我カ宰相タルコトヲ遲クセラル、四年、寇準罷メラル、準再相トナリ、丁謂ト會食ス、羹準ノ鬚ヲ汚ス、謂起テ之ヲ

拂フ、準笑テ曰ク、參政ハ國ノ大臣ナリ、乃官長ノ
爲メニ鬚ヲ拂ハンヤ、謂大ニ慙恨ス、帝風疾アル
ニ因テ、皇后劉氏ト謀テ、遂ニ準ヲ出ス、乾興元年
帝崩ス、皇后ニ遺詔シテ軍國ノ事ヲ權處セシム、
太子禎卽位ス、寇準ヲ貶シテ雷州司戶參軍トシ、
李迪ヲ衡州團練副使トス、丁謂二人ノ朋黨ヲ誣
テ之ヲ貶ス、參政王曾奏ス、謂禍心ヲ包藏ス、真宗
ノ山陵雷允恭ニ命シテ檀ニ皇堂ヲ絶地ニ移ス
ト、遂ニ謂ヲ崖州司戶參軍ニ貶ス、仁宗諱ハ禎
真宗ノ
子、明道二年、皇太后劉氏崩ス、后制ヲ稱スルコ

ト十一年號令嚴明ナリ、入武后臨朝ノ圖ヲ獻ス、
后地ニ擲チテ曰ク、吾此祖宗ニ負クノ事ヲヤス、
景祐三年、知開封府范仲淹集賢校理余靖館閣
校勘尹洙歐陽修ヲ外ニ貶ス、仲淹勸時政ヲ議ス、
呂夷簡其職ヲ越ユルヲ訴ヘテ之ヲ罷ム、余尹之
ヲ爭テ皆貶セラル、歐陽修書ヲ以テ諫官高若訥
カ諫メサルヲ責ム、若訥其書ヲ奏ス、修亦貶セラ
ル、蔡襄四賢一不肖ノ詩ヲ作ル、寶元元年、趙元
昊夏銀宥靈鹽會勝甘涼瓜沙肅等ノ地ヲ據有シ
テ帝ト稱ス國ヲ夏ト號ス、康定元年、元昊延州

ニ寇ス、范雍敗ル、范仲淹自請テ行キ、大ニ州兵ヲ
訓練シ、更、出テ之ヲ禦ク、賊相戒メテ曰ク、延州ヲ意
トスルコト勿レ、小范老子ノ腹中自數萬ノ甲兵
アリ、大范老子范雍ノ欺ク可キカ如クナラス、明年
仲淹韓琦并ニ陝西ノ安撫招討使トナル、二人號
令嚴命、士卒ヲ愛撫シ、誠ヲ推シテ諸羌ヲ撫接ス、
羌敢テ邊ヲ犯サス、邊人謠テ曰ク、軍中有一韓、西
賊聞之、心膽寒、軍中有一范、西賊聞之、驚破膽、慶
歷二年、契丹西夏ノ亂ニ乘シ、來テ周ノ世宗カ復
スル所ノ關南ノ地ヲ求ム、時ニ呂易簡事ヲ專ニ

ス、知制誥富弼數之ヲ侵ス、易簡弼ヲ罪セントシ
弼ヲ契丹ニ報使ス、弼割地ノ乞ヲ拒テ還リ奏ス、
再至ル時、易簡之ヲ陷レントシ、國書故ニ異同アリ、
弼疑ヒ密ニ啟テ之ヲ觀ル、乃復回奏シ、易簡
ヲ面責シ、書ヲ易ヘテ往キ、遂ニ歲ニ銀絹十萬ヲ
增賂シ、和議ヲ定メテ還ル、三年歐陽修王素蔡襄ヲ
知諫院トシ、余靖ヲ右正言トス、修切直事ヲ論ス、
人之ヲ仇視ス、帝獨其敢言ヲ獎ム、侍臣ヲ顧テ曰
ク、歐陽修ノ如キ者、何ノ處ヨリ得來ル、元昊和ヲ
請フ、韓琦范仲淹ヲ召シ還ス、仲淹ヲ參知政事、琦

ヲ陝西宣撫使富弼ヲ樞密副使トス、四年、元昊復使ヲ遣シ、上表ス、冊シテ夏國主トス、九世ニ傳フ、元ニ滅ル、五年、杜衍、范仲淹、富弼ヲ罷ム、衍ノ壻蘇舜欽進奏院ヲ監ス、例ニ神ヲ祠ルニ伎樂ヲ以テ賓ヲ會ス、御史中丞王拱辰素ヨリ衍ノ所爲ヲ便トセス、因テ其事ヲ攻ム、罪ヲ得ル者十餘人、拱辰喜テ曰ク、吾一網打盡スト、衍中淹弼等去ル、琦之ヲ辨析ス、亦罷ラル、皇祐三年、張堯佐ヲ宣徽使トス、張貴妃ノ叔父タルヲ以テナリ、殿中御史唐介之ヲ抗論ス、遂ニ宰相文彦博ニ及フ、帝怒テ介ヲ

英州ニ貶ス、彦博モ亦罷ラル、五年、荆湖ノ宣撫

使狄青大ニ儼智高ヲ邕州ニ敗ル、

智高、廣源州ニ在リテ南天國ト

僭稱ス、

廣南平ク、

至和二年、文彦博、富弼ヲ同平章

事トス、帝相ヲ置クヲ王素ニ問フ、素曰ク、惟宦官

宮妾姓名ヲ知ラサル者、其選ニ充ツヘシ、帝曰ク、

則富弼ノミ、遂ニ相トス、嘉祐五年、王安石ヲ三司

度支判官トス、安石議論高奇、世ヲ矯メ俗ヲ變ス

ルノ志アリ、六年、歐陽修ヲ參知政事トス、時ニ

韓琦首相タリ、法令典故ハ曾公亮ニ問ヒ、文學ハ

修ニ問フ、三人同心シテ政ヲ輔ク、朝廷治ト稱ス、

七年、宗實ヲ立テ、皇子トス、群臣儲位未建タルヲ憂フ、知諫院司馬光力請ス、帝感動シ、詔シテ宗實ヲ立ツ、八年、帝崩ス、鉅鹿郡公曙即位ス、英宗皇帝諱ハ宗實、名ヲ曙ト更ム、仁宗ノ從兄、濮ノ安懿王ノ子、治平二年、濮王ヲ崇奉スル典禮ヲ議ス、司馬光言フ、皇伯ト稱スヘシ、歐陽修謂フ、名ハ没ス可カラス、本生ノ親、改テ皇伯ト稱スハ前典ナシ、遂ニ詔レテ親ト稱ス、園ニ即テ廟ヲ立ツ、四年、帝崩ス、初帝疾アリ、皇太后曹氏權ヲ同シク政ヲ聽ク、太子即位ス、歐陽修濮王典禮ノ議ヲ以テ衆詆已マス、遂ニ罷

ラル、韓琦相ヲ罷ム、帝謂フ、卿去ラハ誰ニ國ヲ屬セシ、安石ハ何如シ、琦曰ク、王安石翰林學士タレハ餘アリ、輔弼ノ地ニ處ク可カラス、神宗皇帝諱ハ項、英宗太子、熙寧二年、富弼ヲ同平章事トス、王安石ヲ參知政事トス、弼入リテ曰ク、朝廷ハ静ヲ守ルヘシ、動作レテ事ヲ生スレハ小人必希覬セン、安石風俗ヲ變レ法度ヲ立テント欲ス、唐介モ亦曰ク、安石古ニ泥ミ迂濶ナリ、三司條例司ヲ創シ、議シテ新法ヲ行フ、陳升之王安石其事ヲ領ス、安石言フ、周ニ泉府ノ官ヲ置テ、天下ノ財ヲ變通ス、今此

法ヲ修メテ利權ヲ收ムヘレ、時ニ安石ヲ以テ人ヲ得ルトセリ、御史中丞呂誨獨然リトセス、入對セニトレテ司馬光ニ遇フ、光曰ク、今日何事ヲカ言フ、誨曰ク、袖中ノ彈文ハ新參ナリ、光愕然トシテ曰ク、奈何ソ之ヲ論スル、誨曰ク、君實^光亦是言アリヤ、上疏レテ安石ヲ論ス、遂ニ罷メラレ、呂惠卿安石ニ附和ス、條例司檢詳文字蘇徹論多ク合セス、出テ、河南推官タリ、初、安石青苗ノ法ヲ行ハントス、^{常平等ノ糴本ヲ以テ人戸ニ散與レ}息ニ分ヲ出サシム、春散レ秋歛、徹曰ク、錢ヲ以テ民ニ貸セハ、吏緣テ姦ス、錢民手ニ

入レハ、良民モ妄用ヲ免レス、其納錢ニ及テハ、富民モ違限ヲ免レス、恐ラクハ鞭箠必用非テ州縣ノ事煩レカラン、三年、河北安撫使韓琦上疏レテ青苗法ヲ罷メント請フ、王安石病ト稱レテ朝セス、詔諭レテ之ヲ起コス、司馬光再三新法ノ非ヲ開陳ス、呂公著モ亦青苗ヲ論ス、會、帝呂惠卿ヲ御史トセントス、公著曰ク、姦邪用井ル可カラス、安石怒ヲ公著ニ積ミ、之ヲ潁州ニ貶ス、諸新法ノ不便ヲ言フ者、帝皆聽カス、帝監察御史裏行程顥ヲ中書ニ詣ラシメ、新法ノ非ヲ議ス、安石色ヲ勵マレ

テ待ツ、顥徐ニ曰ク、天下ノ事ハ一家ノ私言ニ非
ス、願クハ平氣之ヲ聽ケ、安石愧屈ス、顥遂ニ罷
ル、直史館蘇軾ヲ杭州ニ出ス、秦鳳ノ經略使李師
中ヲ舒州ニ貶ス、師中嘗テ安石ヲ論シテ曰ク、安
石眼白多シ、甚、王敦ニ似タリ、他日天下ヲ亂サン、
翰林學士范鎮青苗ノ害ヲ極言シ、遂ニ致仕ス、保
甲ノ法ヲ立ツ、十家ヲ保トス、五十家ヲ大保トス、
保正副トス、自武藝ヲ習フヲ聽ル、王安石王珪ヲ參知政事トス、
募役ノ法ヲ行フ、人戸ヲ等第シテ、免役錢ヲ司馬
光之ヲ争フ、帝聽カス、四年司馬光ヲ判西京留

臺トス、光洛ニ歸リ絶エテ復新法ヲ論セス、王雱ヲ
崇政殿說書トス、雱ハ安石ノ子ナリ、一日安石程
顥ト語ル、雱問フ何ヲ言ス、安石曰ク、新法ヲ論ス、
雱大言シテ曰ク、韓琦富弼ノ首ヲ梟セハ、行ハレ
ン、顥曰ク、方ニ參政ト國事ヲ論ス、子弟預ル可カ
ラス、五年市易ノ法ヲ行フ、凡貨ノ市フ可ク、及
錢之ヲ保馬ノ法ヲ行フ、保甲馬ヲ養ハント願フ
市フ、直ヲ與フ、歲ニ肥瘠ヲ閔シテ死病ハ償フ、
七年大旱ス、詔シテ直言ヲ求ム、時ニ征歛苛急流民道ニ塞カル、監安上門
鄭俠見ル所ヲ圖シテ上ル、且云フ、安石ヲ去リテ

十日雨ヲラスハ臣ヲ斬レ帝長吁シテ權ニ新法
ヲ罷ム此日果シテ雨フル群姦切齒ス遂ニ俠ヲ
獄ニ下レ復新法ヲ行フ王安石免ス韓絳ヲ同平
章事呂惠卿ヲ參知政事トス手實ノ法ヲ行フ免
錢ヲ出スコト均シカラサルヲ以テ人戸丁口田
宅ノ實ヲ具セシム若隱落アレハ告ル者ニ其三
賞ス一ヲ呂惠卿初王安石ヲ迎合ス既ニ志ヲ得テ
安石ヲ害スルコト百方絳惠卿ト争ヒ密ニ安石
ヲ復センコトヲ請フ安石再入ル後數月絳惠卿
皆免ス司徒侍中魏琦卒ス帝自碑文ヲ製ス篆レ
テ兩朝顧命定策元勳ト曰フ韓縝ニ詔レ河東ニ

如キ地ヲ割テ遼ニ界ス九年王安石免ス吳充
王珪相タリ元豐二年知湖州蘇軾ヲ獄ニ下ス
貶シテ黃州團練使トス軾事ヲ敢言セスレテ詩
ヲ作り托諷スルヲ以テ李定舒亶等其語ヲ侮慢
ナリトシテ之ヲ罪ス軾ノ詩案ニ坐シテ黜罰セ
ラル者弟轍及張方平司馬光范鎮等凡二十三人
六年太師文彥博致仕ス彥博河南ニ在リテ白
居易ノ故事ヲ用ヰテ富弼ノ第ニ置酒シテ相樂
ム齒ヲ尚ヒテ官ヲ尚ハス洛陽名園古刹多シ諸
老相會ス耆英會ト謂ス七年端明殿學士司馬

光通鑑ヲ上ッル、英宗ノ時ヨリ、十九年ヲ歷テ成
ル、八年帝崩ス、太子即位ス、太皇太后朝ニ臨ミ
政ヲ聽ク、司馬光洛ヨリ入リテ、臨ス、衛士望見シ
テ、皆手ヲ額ニ加テ曰ク、此、司馬相公ナリ、民道ヲ
遮リテ曰ク、願フハ留リテ相ト侍リ、百姓ヲ活セ
ヨ、遂ニ門下侍郎トス、呂公著ヲ尚書左丞トス、民
歡呼歌舞ス、哲宗皇帝諱ハ煦、神宗第六子元祐元年
司馬光ヲ尚書左僕射兼門下侍郎トス、時ニ光己
ニ疾ヲ得タリ、呂公著ニ謂フ、光身ヲ醫ニ付シ、家
事ヲ愚子ニ付ス、唯國事未托スル所アラス、今以

テ公ニ屬ス、青苗免役ノ法ヲ罷ム、王安石卒ス、安
石自奉スル至儉ナリ、衣垢ツケトモ洗ハス、世其
賢ヲ稱ス、蘇洵獨曰ク、是人情ニ近カラスト、辨姦
論ヲ作リテ之ヲ刺ル、呂惠卿罪アリ、建州ニ安置
ス、蘇軾ヲ翰林學士トス、二年、崇政殿說書程頤
ヲ罷ム、頤經筵ニ進講ス、色甚莊ナリ、繼テ風諫ス、
蘇軾人情ニ近カラスト謂テ、毎ニ玩侮ヲ加フ、頤
ノ門人朱光庭賈易軾ヲ力攻ス、遂ニ群賢分黨シ、
洛黨蜀黨朔黨アリ、洛ハ頤ヲ首トス、蜀ハ軾ヲ首
トス、朔ハ劉摯王巖叟等ヲ首トス、而シテ元豐ノ

姦黨陰ニ其隙ヲ伺フ、六年、蘇轍ヲ尚書右丞ト
ス、時ニ熙豐ノ舊臣多ク邪說ヲ起ス、呂大防劉摯
之ヲ患ヒテ、稍其黨ヲ引テ夙怨ヲ平ニセントス、之
ヲ調停ト謂フ、轍君子小人同處ス可カラサルヲ
論ス、調停ノ說遂ニ已ム、八年、太皇太后高氏崩
ス、后疾ム、呂大防范純仁等ニ謂テ曰ク、老身没後、
必多ク官家ヲ調戲スル者アラシ、宜シク聽ク勿
ルベシ、后朝ニ臨ムコト九年、天下女中ノ堯舜ト
ス、帝親政ス、群小カメテ太后ノ時事ヲ排ス、遂ニ
章惇呂惠卿ノ官ヲ復ス、紹聖元年、蘇轍范祖禹

范純仁等皆罷メラル、章惇蔡京相タリ、淳元祐名臣
ノ罪ヲ治ムルコト虐日ナシ、三年、帝崩ス、端王
侁即位ス、太后權ニ同ク政ヲ聽ク、太后ハ神宗ノ
范純仁等ノ官ヲ復ス、蔡卞章惇蔡京等踵テ免ス、
文彥博司馬光等三十三人ノ官ヲ追復ス、太后政
ヲ聽クヲ罷ム、韓忠彥曾布ヲ尚書左右僕射兼門
下中書侍郎トス、徽宗皇帝ノ諱ハ侁、神宗ノ
靖國元年、章惇ヲ貶シテ雷州司戸參軍トス、後睦
州ニ卒ス、復蔡京ヲ復ス、崇寧元年、復司馬光等
ノ官ヲ追貶シ、元祐ノ黨人ヲ藉ス、蔡京ヲ尚書右

僕射兼中書侍郎トス、元祐ノ法ヲ禁シ、黨人ノ碑
ヲ立ツ、明年星變ヲ以テ碑ヲ毀ツ、蔡京免四年
朱勔ヲ以テ花石綱ヲ領セシム、蔡京浙中ノ珍異
ヲ進ム、舳艫淮汴ニ相銜ム、花石綱ト號ス、一石一
木ノ妙輒^テ上供ス、下其害ヲ被ル者多シ、政和元年
宦者童貫遼ノ趙良嗣^{初姓名ハ馬植}ヲ以テ來ル、貫寵ヲ
得タリ、遼ニ使ス、燕人馬植迎ヘテ燕ヲ伐ツノ策
ヲ言フ、貫載セテ歸ル、四年、女真ノ阿骨打遼ニ
叛ス、遼之ヲ伐チテ大敗ス、五年、阿骨打帝ヲ稱
シ、國ヲ金ト號ス、遼ヲ伐チ混同江ヲ渡リ、黃龍府

ヲ取ル、重和元年、蔡京童貫ノ議ニ從テ馬政ヲ
金ニ使シ、夾テ遼ヲ攻ムルヲ約ス、宣和元年童
貫ヲ太傅トシ、蔡攸ヲ開府儀同三司トス、京攸父
子各門戸ヲ立テ、遂ニ仇敵トナル、明年京致仕ス、四年
童貫蔡攸ニ詔シ兵ヲ勒シテ遼ヲ伐ツ先ニ趙良
嗣金ニ使シ、夾テ遼ヲ攻メ金ハ中京ヲ取り、宋ハ
燕京ヲ取ラント約ス、是ニ於テ王黼帝ニ勸ム帝遂
ニ決意ス、東路ノ兵白溝ニ趨キ、西路ノ兵范村ニ
趨ク、遼ノ師戦カム、我師敗績ス、詔シテ師ヲ班ス、
朝散郎宋昭上書シテ極諫ス、遼攻ム可カラス、金

隣ル可カラス、異時金必中國ノ患ヲ爲シ、乞フ王
黼童貫等ヲ誅セシト、昭因テ名ヲ除カシ、金燕京
ニ克ツ、五年金ノ阿骨打死ス、弟吳乞買立ツ、金
人燕京ニ入ル、其知平州張鼓來降ス、金人來リテ、
叛ヲ納ルヲ責ム、朝廷己ムコトヲ得ス、鼓ノ首ヲ
斬テ、金ニ界ス、七年、金ノ將、婁室遼主ヲ獲テ歸
シ、遼セ、金ノ將粘沒喝、幹離不道ヲ分チテ入寇ス、
童貫太原ヨリ逃歸ス、粘沒喝入リテ太原ヲ圍ム、
幹離不、檀薊州ニ入ル、郭藥師燕山ヲ以テ金ニ降
ル、金盡ク燕山州縣ヲ陷シ、帝金兵日ニ迫ルヲ以

テ内禪ニ意アリ、太常少卿李綱給事中吳敏又之
ヲ請フ、帝意遂ニ決ス、位ヲ太子ニ傳フ、李綱ヲ兵
部侍郎トス、時ニ金地ヲ割クヲ議ス、綱言フ祖宗
ノ疆土、當ニ死ヲ以テ守ルヘシ、尺寸モ人ニ與フ
可カラス、欽宗皇帝諱ハ桓、徽宗ノ長子靖康元年、梁方平
ノ師黎陽ニ潰ユ、河南ノ官軍敵ヲ禦ク者ナシ、金
人遂ニ渡ル、笑テ曰ク、南朝人ナレ、王黼ヲ竄シ、李
彥ニ死ヲ賜ヒ、朱勔ヲ放ツ、盜途ニ黼ヲ殺ス、太上
皇出奔ス、金ノ幹離不京師ヲ圍ム、李綱力戰シテ
之ヲ禦ク、金人來リテ和ヲ議ス、李綱堅ク争フヒ

納レス、詔シテ内帑ヲ出タレ、及、士民ノ金帛ヲ括
借シテ之ニ與フ、康王及張邦昌ヲ遣リテ質トス、
後康王還ル、种師道師ヲ帥井テ入リテ援ク、姚平
肅王往ク、仲金ノ營ヲ襲テ敗ル、李綱之ヲ救フ、神臂弓ヲ以
テ金ノ兵ヲ却ク、幹離不我誓ニ違ヒ兵ヲ用井ル
ヲ責ム、李邦彥朝廷ノ意ニ非サルヲ以テ、李綱ヲ
罷メテ金ニ謝ス、太學生陳東及軍民等綱ヲ復セ
ント乞フ、乃綱ヲ尚書右丞京城防禦使トス、幹離
不我カ、備アルヲ知テ、兵ヲ引テ北去ス、种師道追
撃セント請フ、許サス、師道曰ク、異日必國患ヲ生

セシ、粘没喝隆德府ヲ陷レ、太原ヲ圍ム、种師道ニ
詔シテ滑州ニ屯ス、姚古种師中三鎮ヲ援ク、古隆
德府威勝軍ヲ復ス、師中幹離不ヲ追テ、北鄙ニ至
テ還ル、李綱ニ詔シテ太上皇ヲ迎フ、金兵退クヨ
リ京師恬然トシテ、復邊事ヲ問ハス、李綱獨憂ヒテ
屢上言ス、耿南仲之ヲ沮ム、太原圍急ナルニ方リ
テ綱ヲ宣撫使トス、既ニシテ復之ヲ罷ム、蔡京ヲ
竄ス、道ニ死ス、童貫趙良嗣蔡攸朱勔伏誅ス、金ノ
粘没喝幹離不道ヲ分テ入寇ス、我師潰ユ、金人
遂ニ河ヲ渡テ西京ヲ陷ル、王雲ニ詔シ、康王ニ副

トシテ金ノ軍ニ使シ、三鎮中山太原河間ヲ割クヲ許ス、
 金主ヲ尊テ皇叔トス、王磁州ニ至ル、守臣宗澤迎
 謁シテ曰ク、肅王一タヒ去テ返ラス、王願ハクハ
 行クコト勿レ民亦道ヲ遮テ王ヲ止ム雲ヲ指テ
 曰ク、真ノ姦賊ナリト、執ヘテ之ヲ殺ス、王還テ相州
 ニ次ル、幹離不ノ使來リテ割地ヲ議ス、耿南仲聶
 昌ヲ遣リテ使トス、昌行テ道ニ殺サル、南仲遂ニ
 相州ニ奔ル、康王ニ諭シテ入リテ京城ヲ衛ラシ
 ム、幹離不粘沒喝京城ヲ圍ム、城陷ル、帝慟哭シテ
 曰ク、种師道ノ言ヲ用井スシテ此ニ至レリト、遂

ニ金ノ營ニ如キテ降ヲ請フ、兵馬大元帥構康王師
 ヲ帥井テ東平ニ次ル、二年高宗建炎元年、金天會五年、帝金
 ノ營ヨリ還ル、面ヲ掩フテ大哭シテ曰ク、宰相我父
 子ヲ誤ル、詔シテ兩河ノ地ヲ割テ金ニ界フ、民堅
 守シテ詔ヲ奉セス、帝太子ヲ監國トシ、復金ニ如
 ク、副元帥宗澤金人ヲ衛州ニ敗ル、澤孤軍ヲ以テ
 進ム、前後皆敵壘ナリ、澤士卒ニ令シ必死ヲ知ラ
 シム、一百ニ當ラサルナシ、金人大敗ス、金上皇及
 后妃太子宗戚ヲ劫シテ其軍ニ至リ、帝及上皇ヲ
 廢シテ庶人トシ、逼テ衣ヲ易フ、侍郎李若水帝ヲ

抱テ哭シ、賊ヲ罵テ絶エス、遂ニ殺サル、金張邦昌
ヲ立テ、楚帝トス、二帝及后妃太子宗戚ヲ以テ北
去ス、康王皇帝ノ位ニ南京ニ即ク、王應天ニ至ル、
張邦昌來リ見エ、地ニ伏シ慟哭レテ死ヲ請フ、李
綱ヲ召シテ尚書右僕射兼中書侍郎トス、靖康ノ
大臣國ヲ誤ルノ罪ヲ論シテ、李邦彥吳敏耿南仲
等ヲ竄ス、簽書樞密院事張叔夜北遷シ、粟ヲ食ハ
ス、吮ヲ扼シテ死ス、李綱上陳ス、河東河北ヲ料理
スルハ當ニ急ニスヘシ、兩河ヲ棄ルニ忍ヒサル
意ヲ宣諭セシ、宗澤ヲ東京留守トス、秉義郎岳飛

法ヲ犯シテ刑セラレントス、澤一見シテ之ヲ奇
トス、功ヲ立テ罪ヲ贖ハシム、飛大ニ金人ヲ敗ル、
澤曰ク、爾智勇材藝古ノ良將モ過ルコト能ハス
ト、飛ニ陣圖ヲ授ク、飛曰ク、陣シテ戰フハ兵家ノ
常運用ノ妙ハ一心ニ存ス、詔シテ東南ニ幸シ、敵
ヲ避ケント欲ス、李綱其不可ヲ極言シ、南陽ニ幸セ
ント請フ、乃范知虛ヲ知鄧州トシ、城地宮室ヲ修
繕ス、而ルニ汪伯彥黃潛善陰ニ楊州ヲ主議ス、綱
歎シテ曰ク、國ノ存亡是ニ於テ分ル、吾去就ヲ以
テ之ヲ爭フヘシ、侍御史張浚綱カ馬ヲ買ヒ軍ヲ

招クヲ効ス、黃汪等復綱ヲ力排ス、遂ニ綱ヲ罷ム、
綱罷メラレテ招撫經制司モ亦廢シ、車駕遂ニ東
幸ス、綱カ規畫スル軍民ノ政、一切廢罷シ、金兵益
熾ニ、盜賊竊起ス、河北西京皆陷リ、帝揚州ニ幸ス、
高宗皇帝諱ハ構、徽宗第九子、建炎二年金ノ兀朮東京
ヲ犯ス、宗澤之ヲ敗ル、虜常ニ澤ノ威聲ヲ憚リ、南
人ト言ヘハ必宗爺ハト曰フ、澤帝ノ還京ヲ請フニ
十餘奏、每ニ黃潛善汪伯彥ニ抑ヘラル憂憤シテ病
ヲ成ス、終ニ臨テ一語ノ家事ニ及フコトナシ、但
河ヲ過クト連呼スル三タヒニレテ卒ス、三年

劉光世ノ兵潰走ス、金ノ粘沒喝遂ニ天長軍ヲ陷
ル、帝鎮江ニ奔ル、汪黃ニ相倉皇戎服シテ南走ス
帝遂ニ杭州ニ如ク、呂頤浩鎮江ヲ守ル、潛善伯彥
罪ヲ以テ免ス、朱勝非相タリ、張浚ヲ平江ニ駐ス、
扈從統制苗傅劉正彥等亂ヲ作シ、帝ヲ劫レテ位
ヲ魏國公塲ニ傳ヘ、隆祐天祐改号、太后ニ請テ、朝ニ
臨マシム、張浚呂頤浩劉光世韓世忠等兵ヲ會シ、
賊ヲ討ス、世忠二兇ヲ獲テ行在ニ送リテ之ヲ斬
ル、帝江寧ニ如ク、改テ建康、張浚ヲ川陝宣撫使ト
ス、浚恢復ヲ圖ルハ川陝ニ在ルヲ陳シ、請テ自行

漢書

卷三

新唐書

久、金ノ兀朮大舉シテ入寇ス。帝臨安ニ如ク、金人
南京ヲ陷ル。帝復越州ニ如ク、兀朮江ヲ渡テ建康
ニ入ル。杜充叛テ金ニ降ル。通判楊邦人屈セス、衣
裾ニ血書シテ曰ク、寧趙氏ノ鬼トナルモ、他邦ノ
臣トナラスト、首ヲ柱礎ニ觸レテ大罵シテ殺サル。
兀朮長驅シテ臨安ヲ陷ル。兵ヲ遣リテ浙ヲ渡ル。
帝海ニ航ス。江淮統制岳飛建康ヨリ金人ヲ躡ム。
六戰シテ皆捷ツ。金兵相謂テ曰ク、此岳爺々ノ軍
ナリト。爭テ降附ス。四年、金人明州ヲ陷ル。遂ニ
帝ヲ海ニ襲ス。帝温州ニ走ル。兀朮引テ北還ス。帝

越州ニ還ル。韓世忠兀朮ヲ江中ニ邀撃ス。兀朮大
ニ窘メラレ、建康ニ走ル。世忠海舟ヲ以テ風ニ乘
シテ兀朮ヲ追フ。兀朮火箭ヲ以テ風ナキヲ候ヒ、世忠
ヲ襲フ。世忠敗績ス。兀朮遂ニ江ヲ濟ル。世忠八千人
ヲ以テ兀朮カ十萬ノ衆ヲ拒ク。凡四十八日ニシテ
敗ル。然レトモ金人は是ヨリ敢テ復江ヲ渡ラス。此
役ヤ。世忠兵ヲ金山ノ龍王廟ニ伏セテ幾、兀朮ヲ獲
タリ。金二帝ノ五國城ニ徙シ、劉豫ヲ立テ、齊王
トス。金人秦檜ヲ縱テ還ス。慥慥ノ南侵スルヤ檜
其ノ參謀タリ。自逃レ歸ルト言フモ朝士皆之ヲ

漢書

卷三

三

新唐書

疑ス、檜云フ天下無事ナルヲ欲セハ、南ハ自、南、北
ハ自、北ニスヘシト、皆憊懶ノ意ナリ、金人、陝西ヲ
侵ス、張浚六路ノ兵ヲ合シ、富平ニ戰テ大敗ス、
紹興元年、張浚、岳飛、江淮ノ盜李成ヲ討シ、大ニ之
ヲ破ル、群盜皆遁ル、秦檜又、尚書右僕射、同平章事
トス、兀朮和尚原ニ寇ス、吳玠其弟璘ト大ニ之ヲ
敗ル、兀朮流矢ニ中リ、僅ニ免ル、二年、帝臨安ニ
如ク、劉豫汴ニ徙ル、秦檜免ス、呂頤浩御史ニ諷レ
檜ヲ和議ヲ主トシ、國ヲ誤ルヲ劾ス、因テ其ノ罪ヲ
朝堂ニ榜ス、三年、金ノ撒離曷金州ヲ陷ル、劉子

羽、吳玠ヲ召シテ入テ援ケシム、玠饒風關ニ至テ敵
ヲ扼ス、敵間道ヨリ繞リテ我後ニ出、諸軍潰ユ、
撒離曷遂ニ興元ニ入ル、子羽玠還リ、擊テ之ヲ破
ル、四年、岳飛ヲ荆南制置使トス、飛江ヲ渡リ、中
流ニシテ幕屬ヲ顧テ曰ク、飛賊ヲ擒セスハ、此江
ヲ涉ラスト、月ヲ踰エテ六郡ヲ復シ、襄漢悉ク平
ク、趙鼎ヲ川陝都督トス、會邊報驟ニ至ル、帝鼎ニ
謂テ曰ク、卿豈遠ク去ル可ケンヤト、遂ニ相トス、韓
世忠大ニ金人ヲ大儀ニ敗ル、撻不野等二百餘人
ヲ擒ス、張浚ヲ知樞密院事トシ、師ヲ江上ニ視ル、

金ノ捷懶兀木韓世忠ニ扼セラレ、且浚ノ鎮江ニ在ルヲ聞テ、淮ヨリ引キ還ル。五年、金主吳乞買卒ス、兄ノ孫亶立ツ、岳飛大ニ揚太ヲ洞庭ニ破ル、太死ス。六年、帝平江ニ如ク、秦檜ヲ行營留守トス、岳飛劉豫ノ衆ヲ唐州ニ敗ル、上疏レテ中原ヲ恢復セント請ス、許サス、揚沂中大ニ劉猺ヲ藕塘ニ敗リ、劉麟ヲ追テ壽春ニ至テ還ル。七年、何薺金ヨリ還ル、始テ上皇太后ノ喪ヲ聞ク、上皇五年ニ崩ス、王倫ヲ奉迎梓宮使トシ、金ニ如ク、帝建康ニ如ク、岳飛太尉ヨリ宣撫使トナル、帝ヲ見テ數、恢復ノ

略ヲ論ス、帝曰ク、中興ノ事一ニ卿ニ委スト、秦檜之ヲ忌ム、且張浚ト事ス、議シ浚ニ忤フ、上章シテ廬山ニ還ル、未幾ナラス、累詔レテ飛ヲ趣カン、還職ス。八年、秦檜相タリ、王倫復、金ニ如キ、和議ヲ定ム、同平章事趙鼎參知政事、劉大中和議ヲ主トセ、秦檜忌テ大中ヲ罷ム、鼎疾ヲ引テ罷メラル、樞密院編修胡銓ヲ貶ス、銓上疏レテ金虜和スヘカラス、王倫秦檜孫近ノ頭ヲ斬リテ、然レテ後問罪ノ師ヲ興サント言ス、廣州ニ貶セラレ、王倫復金ニ如ク、金ノ和議實ニ捷懶之ヲ主トス、倫行

テ中山ニ至ル、會、撻懶等反シテ誅セラル、金人倫
ヲ執フ、十年、觀文殿太學士隴西公李綱卒ス、綱
天下ノ望ヲ負ヒ、一身ノ用舍ヲ以テ社稷生民ノ
安危ヲ爲ス、使者金ニ至レハ、金人必李綱趙鼎ヲ
問フ、遠人畏服スルコト此ノ如シ、金ノ兀朮撒離
喝道ヲ分チテ入寇ス、河南陝西復陷ル、吳璘金人
ヲ扶風ニ敗リ、其城ヲ復ス、金ノ兵順昌ヲ圍ム、東
京留守劉錡壯士ヲ募テ、夜其營ヲ斫ル、敵衆大ニ
亂レ退ク、兀朮怒テ大衆ヲ帥ヰテ來援ス、錡豫、潁
ノ上流、及、艸木ニ毒シテ之ヲ埃ツ、時ニ大暑、敵ノ

人馬飢渴ス、水艸ヲ食テ輒病ム、錡出テ戰フ、敵大
敗ス、兀朮遂ニ汴ニ還ル、岳飛兵ヲ遣リテ金人ヲ
京西ニ敗ル、時ニ秦檜和議ヲ主トス、秦シテ飛ノ
師ヲ班ス、岳飛金ノ兀朮ヲ郾城ニ走ラス、追テ朱
仙鎮ニ至テ、大ニ之ヲ破ル、西河ノ豪傑既ニ飛ニ
率服シ、燕ヨリ以南金ノ號令行ハレス、兀朮嘆シ
テ曰ク、我未今日ノ如キ挫衄ハアラスト、秦檜臺
臣ニ諷シテ飛ノ師ヲ班ス、飛還ル、河南復金ニ陷
ル、十一年、金皇統元年金ノ兀朮壽春ヲ陷ル、揚沂中
劉錡之ヲ柘皋ニ敗リ、遂ニ廬州ヲ復ス、兀朮淮ヲ

漢書卷一百一十五
卷一百一十五

渡テ北去ス、韓世忠張浚ヲ樞密使トシ、岳飛ヲ副
使トス、秦檜其兵柄ヲ解カント欲スレハナリ、淮
北宣撫判官劉錡ヲ罷ム、岳飛恢復ヲ己カ任トス、
秦檜謂フ、飛死セサレハ終ニ和議ヲ授シ、己必禍
ニ及ハントカ、テ飛ヲ殺スヲ謀ル、檜詔ヲ矯テ飛
ヲ大理ノ獄ニ下ス、部將張憲及飛ノ子雲皆獄ニ
就ク、何鑄之ヲ鞠ス、飛裳ヲ裂テ背ヲ示セハ、盡忠
報國ノ四大字舊涅シ、膚理ニ深入ス、鑄其冤ヲ檜
ニ白ス、檜改テ万俟卨ニ命シテ、其獄ヲ付會シ、遂
ニ之ヲ殺ス、韓世忠罷メラル、世忠數和議ノ非ヲ

論ス、是ニ至テ門ヲ杜チテ客ヲ謝シ、口兵ヲ言ハ
ス、西湖ニ縱遊シ、褰ニ卧スコト凡十年ニレテ卒
ス、和議成ル、表ヲ金ニ奉レテ臣ト稱シ、唐鄧商秦
ノ地ヲ割テ之ニ畀ス、十二年金人徽宗及鄭后
ノ喪ヲ歸ス、皇太后韋氏金ヨリ至ル、十五年張
浚ヲ連州ニ放ツ、十七年故相趙鼎吉陽軍ニ卒
ス、鼎吉陽ニ徙サル、ヨリ潛居深處ス、秦檜ノ必
己ヲ殺サントスルヲ知テ、遂ニ食ハスレテ死ス、
十八年金ノ兀朮卒ス、十九年金廢主亮金ノ
完顏亮其主亶ヲ弑シテ自立ス、二十三年金貞元元

漢書卷一百一十五
卷一百一十五
二十七年

年、金燕ニ遷都ス、二十五年、秦檜死ス、檜相タル
コト十九年、和ヲ倡ヘ國ヲ誤リ、一時ノ忠良誅鋤
シ略盡ク、晚年殘忍尤甚シ、二十八年、金汴宮ヲ
營ム、二十九年、金諸兵ヲ籍シ戰具ヲ造ル、孫道
夫、金ニ使シテ還リ、其南侵セントスルヲ奏ス、綿
州ニ貶セラル、三十一年、金世宗、雍大定元年、金主亮ノ使
來テ漢淮ノ地ヲ求ム、始テ靖康帝ノ喪ヲ聞ク、十六年
祖ス、金主汴ニ遷都シ、大舉シテ入寇ス、遠近大ニ
震ル、金人黃牛堡ヲ攻ム、四川宣撫使吳玠等之ヲ
敗リ、遂ニ秦隴、岷三州ヲ復ス、金ノ東京ノ留守烏

祿性仁孝ナリ、國人之ニ歸ス、金主亮、カ其母ヲ弑
シ、且宗室兄弟ヲ害セントスト言フ者アルヲ聞
キ、遂ニ即位シ、詔シテ亮ノ罪ヲ暴揚ス、張浚ヲ召
シテ判建康府トス、金主采石ニ臨ム、參謀軍事虞
允、文采石ニ至ル、敵騎充斥シ、官軍星散ス、允、文孤
軍ヲ以テ衆ヲ勵シ督戰シテ大ニ金ノ軍ヲ敗ル、
金主揚州ニ趨ク、時ニ劉琦疾ム、允文之ヲ問フ、錡
其手ヲ執リテ曰ク、朝廷兵ヲ養フ三十年、一技施
サス而シテ大功乃一儒生ニ出ツ、我輩愧死スト、
金主亮、其下ニ殺サル、帝建康ニ如ク、張浚道左ニ

迎拜ス、軍民皆浚ニ倚重ス、金主雍即烏祿燕ニ入ル、
 三十二年、金主雍令ヲ下シ、南征ノ衆ヲ撒シ、使
 ヲ遣ハレテ來聘ス、帝位ヲ太子ニ傳フ、太子即位
 ス、中外ニ詔シテ、時政ノ得失ヲ言ハシム、監南嶽
 廟朱熹封事ヲ上リ、帝王ノ學ハ誠意正心ニ在ル
 ヲ言ヒ、次ニ修攘ノ計ヲ定ルヲ言フ、張浚ヲ江淮
 宣撫使トス、岳飛ノ官ヲ追復シ、禮ヲ以テ改葬ス、
 史浩ヲ參知政事トス、浩陝西ヲ棄テント欲ス、故ニ
 宣撫使虞允文ヲ罷メ、吳璘ニ詔シテ師ヲ班ス、新
 復ノ十三州復金ニ入ル、
 孝宗皇帝諱ハ脊、太祖六世ノ孫、秀

王偁隆興元年、張浚ヲ都督江淮軍馬トス、李顯忠
 靈壁ヲ復ス、遂ニ邵宏淵ニ會シ、虹縣ヲ復ス、金ノ
 將士多降ル、張浚江ヲ渡ル、李顯忠大ニ金人ヲ敗
 テ宿州ヲ復ス、顯忠宏淵相能カラス、顯忠進マン
 ト欲ス、宏淵動カス、顯忠遂ニ引テ還ル、符離ニ至
 テ師大潰ス、二年、張浚師ヲ江淮ニ視ル、金ノ軍
 之ヲ聞テ退ク、浚國ヲ去ルコト二十年、天下傾慕
 セサルハナシ、是、秋卒ス、金兵復淮ヲ渡ル、魏勝淮
 陽ニ拒戦シテ之ニ死ス、楚州陷ル、湯思退和ヲ議
 レ國ヲ誤ルノ罪ヲ以テ永州ニ竄セラレ、乾道

元年、魏杞金ヨリ還ル、始テ敵國ノ禮ヲ正ス、國書ト称スルヲ以テ、金大ノ字ヲ去ラシム、杞之ヲ拒ム、金主歲幣ヲ損シ、歸正ノ人ヲ發セサルヲ許ス、
三年、四川宣撫使吳玠卒ス、玠蜀ヲ守ルコト二十年、隱然トシテ方面ノ重ヲ爲ス、五年、陳俊卿虞允文ヲ尚書左右僕射トス、俊卿人ヲ用非ルヲ己カ任トス、允文モ亦人才ヲ以テ急トス、淳熙三年、朱熹ヲ召テ秘書郎トス、至ラス、復知南康軍トス、再辭スレトモ許サス、南康ニ至ル、歲雨ヲサルニ値ス、荒政ヲ講求シ、全活スル所多シ、唐ノ李渤カ白鹿洞書院ノ遺址ヲ訪テ、奏シテ其舊ニ復

シ、學規ヲ爲リテ之ヲ守ラシム、十六年、金主雍卒ス、世宗ト追號ス、雍金ノ諸帝中、最賢ナリ、國人小堯舜ト號ス、帝位ヲ太子ニ傳ス、太子卽位ス、光宗皇帝諱ハ惇、孝宗第三子、紹熙二年、金章宗明昌二年、郊ス、大風雨アリ、事ヲ卒ヘスレテ還ル、初、帝宦官ヲ誅セント欲ス、近習懼レ、遂ニ謀リテ三宮帝后ヲ離間ス、后妬婢ナリ、嘉王ヲ太子トセント請テ許サレサルニ因テ壽皇ノ號ヲ銜シ、其廢立ノ意アルヲ誣罔ス、帝驚恐シテ疑疾ヲ得、又此變ニ值ヒ、震懼シテ疾ヲ増ス、復重華宮ニ朝セス、五年、壽皇疾

アリ、群臣疾ヲ朝華宮ニ問ハシコトヲ請フ、從ハス、
大漸ニ及ヒ群臣奏シテ嘉王ヲシテ疾ヲ問ハシ
ム、壽皇崩ス、帝疾ト稱シテ出テス、丞相留正等壽
聖太后ニ請フテ、代リテ喪事ヲ行ハシム、太后ヲ
尊テ太皇太后トス、留正帝ノ疾ミテ喪ヲ執ラサ
ルヲ以テ、太子ヲ建テント請フ、許サス、正遂ニ疾ト
稱シ、逃レ去ル、太皇太后嘉王橫ニ詔シ、服ヲ成シ
即位セシム、帝ヲ尊テ太上皇トス、留正既ニ去テ
人心益搖ク、趙汝愚憂危ス、内禪ノ議益決ス、汝愚
遂ニ太皇ノ旨ヲ皇子ニ諭ス、皇子重華殿ニ就テ

位ニ登リ、禪祭ノ禮ヲ行フ、中外晏然タリ、初汝愚
知閣門韓侂胄ト内禪ヲ議シ、侂胄ヲシテ太后ニ
白サシム、侂胄ハ太后ノ女弟ノ子ナリ、是ニ於テ侂
胄定策ノ功ヲ推サント欲ス、汝愚之ヲ拒ム然レ
トモ詔旨ヲ傳道スルヲ以テ浸、親幸セラレ、威福
ヲ竊弄ス、入其國患ヲ爲スヲ知ル、朱熹ヲ煥章閣
待制兼侍講トス、熹進講スル毎ニ敷陳開析罄竭
シテ隱スコトナシ、上疏シテ韓侂胄ニ忤フ、遂ニ
罷ノラル、侂胄ノ黨目スルニ偽學ヲ以テシ、朝廷
ノ正士ハ排斥シテ遺スモノナシ、寧宗皇帝諱

橫光宗ノ慶元元年右丞相趙汝愚ヲ罷ム、侂冑必
第三子之ヲ死ニ置カント欲ス、遂ニ永州ニ竄ス、道ニ暴卒
ス、六年故秘閣脩撰朱熹卒ス、時ニ僞學ノ禁嚴
ナリト雖、會葬スル者數千人ト云フ、太上皇崩ス、
嘉泰四年金蒙古ノ禍アリテ、國勢日ニ弱シ、韓
侂冑謂ス、此釁ニ乘セハ中原圖ルベシト、遂ニ謀
リテ金ヲ伐ツ、開禧元年韓侂冑ヲ平章軍國事
トス、二年詔ヲ下シ金ヲ伐ツ、郭倪宿州ヲ攻テ
大敗ス、皇甫斌唐州ニ敗績ス、金ノ僕散揆兵ヲ分
テ入寇シ、真州ヲ陷ル、韓侂冑師出テ屢敗ル、ヲ

以テ、使ヲ遣リテ和ヲ議ス、蒙古ノ奇渥溫鏖木真
帝ヲ韓難河ニ稱ス、是ヲ元ノ太祖トス、三年方
信孺ヲ金ニ使ス、金人五事ヲ以テ要ス、信孺屈セ
ス、シテ還ル、信孺侂冑ニ言フ、敵ノ欲スル所ハ五
事ナリト第四事ニ言ヒ及フ、五ハ敢テ言ハス、侂
冑固ク問フ、信孺徐ニ曰ク、太師ノ頭ヲ得ント欲
スルノミ、侂冑大ニ怒リテ、信孺ノ官ヲ貶ス、禮部
侍郎史彌遠韓侂冑ヲ玉津園ニ誅ス、詔シテ侂冑
ノ罪ヲ中外ニ暴ス、侂冑兵ヲ弄フヨリ公私力屈
ス、彌遠之ヲ誅シテ邦ヲ安セント請フ、楊后之ヲ

賛ス、帝允可ス、命シテ之ヲ殛殺シ、蘇師旦ヲ誅ス、
嘉定元年、韓侂胄蘇師旦ノ首ヲ金ニ與ヘテ講
和ス、金主璟卒ス、衛王永濟立ツ、六年、金至寧元
年、宣宗珣
真祐金ノ胡沙虎其主永濟ヲ弑シ、昇王珣ヲ立ツ、
蒙古大ニ金ノ將朮術高琪ヲ懷來ニ敗リ、進ミテ
燕ヲ圍ム、蒙古兵ヲ分ケテ金ノ河北河東ノ諸州
郡ヲ拔ク、七年、金蒙古ト平ク、遂ニ汴ニ遷都ス、
蒙古復燕ヲ圍ム、八年、金兵ヲ遣リテ燕ヲ救ヒ、
霸州ニ大潰ス、蒙古遂ニ燕ニ入ル、十年、金入寇
ス、詔シテ金ヲ伐ツ、十一年、金ノ使來テ和ヲ求

ム、納レス、十二年、金人復大舉シテ棗陽ヲ圍ム、
孟宗政扈再興合擊シテ大ニ金人ヲ棗陽ニ敗リ、
其衆三萬ヲ殺ス、金人はヨリ敢テ襄陽棗陽ヲ窺
ハス、宗政ノ威境外ニ振ス、十四年、沂王ノ嗣子
貴和ヲ立テ、皇子トシ、宗室貴誠ヲ立テ、沂王
ノ後トス、十五年、金元光
元年子竑ヲ進封シテ濟國
公トス、即貴貴誠ヲ邵州防禦使トス、時ニ楊后政
ヲ專ニシ、史彌遠權勢熏灼ス、竑心不平ナリ、彌遠
ヲ遠州ニ置カント期ス、彌遠聞テ大ニ懼ビ、日ニ竑
ノ失ヲ媒蘖ス、十六年、金主珣卒ス、子守緒立ツ、

十七年

金哀帝守緒正大元年

帝崩ス、史彌遠詔ヲ矯テ沂

王ノ子貴誠ヲ立ツ、名ヲ昀ト更ム、皇子竑ヲ濟王

トシ、出タシテ湖州ニ居ラシム、理宗皇帝諱ハ

祖十世ノ孫、榮王希璫ノ子、寶慶元年、湖州ノ藩士兵ヲ起シ、濟

王竑ヲ立テンコトヲ謀ル、竑朝ニ告テ州兵ヲ帥井

テ之ヲ討平ス、史彌遠竑ヲ忌ミ、詔ヲ矯テ竑ヲ殺

ス、彌遠濟王ノ事ヲ論スル者衆キヲ患フ、梁成大

等其鷹犬トナリ、名人賢士ヲ擊排ス、真德秀洪咨

夔魏了翁皆罷メラル、二年、蒙古夏ニ入ル、夏主德

旺憂悸シテ卒ス、弟ノ子覲立ツ、明年夏三年、蒙

古ノ鐵木真死ス、少子拖雷監國ス、紹定二年、蒙古

太宗奇渾溫窩闊台元年、蒙古太祖ノ遺詔ヲ以テ窩闊台ヲ立

ツ、四年、趙范趙葵青州ノ反寇李全ヲ敗テ、淮安

ヲ收復ス、蒙古金ヲ侵サントシテ道ヲ假ル、我其

使ヲ殺ス、五年、金天興元年、蒙古ノ窩闊台白坡ヨリ

河ヲ渡リテ、鄭州ニ次ル、其將速不臺金ノ汴京ヲ

圍ム、金ノ完顏合達移剌蒲阿軍ヲ引テ汴ヲ援ケ、

蒙古ノ拖雷ト三峰ニ戰テ大敗ス、忠孝軍、總領完

顏陳和尚之ニ死ス、金ノ健將銳卒俱ニ盡ス、金主其

弟訛可ヲ蒙古ニ質トシテ和ヲ請フ、蒙古軍ヲ退

久、金復蒙古ノ使ヲ殺ス、蒙古復汴ヲ圍ム、六年、
金主守緒河ヲ渡リテ歸德ニ走ル、金ノ汴京西面、
元帥崔立亂ヲ作シ、城ヲ以テ蒙古ニ降ル、金主守
緒蔡州ニ走ル、端平元年、金主守緒位ヲ其宗室
承麟ニ傳ス、孟珙蒙古ノ兵ヲ以テ蔡州ニ入ル、守
緒及尚書右丞完顏忽斜虎之ニ死ス、承麟亂兵ニ
殺サル、金亡ル、趙范趙葵三京ヲ復セント請ス、全
子才ニ詔シテ淮西ノ兵ヲ合セ汴ニ赴ク、金ノ故
將李伯淵等崔立ヲ誅シテ降ル、既ニシテ蒙古兵
ヲ引テ洛陽ニ至ル、葵子才ト遂ニ汴ヲ棄テ、歸

ル、三年、蒙古棗陽軍德安府ヲ陷ル、初、蒙古許州
ヲ破リテ、姚樞ヲ獲、又德安ヲ拔キテ趙復ヲ獲タ
リ、復儒學ヲ以テ世ニ重セラル、是ヨリ北方始テ
經ヲ學フヲ知ル、樞モ亦程朱性理ノ書ヲ觀ルヲ
得タリ、淳祐元年、蒙古主窩闊台卒ス、旨アリ孫
失烈門ヲ嗣トス、后第六后乃馬真氏從ハス、遂ニ和林ニ
制ヲ稱ス、二年、蒙古ノ燕京行省郎中姚樞官ヲ
棄テ、蘇門ニ隱ル、牙刺瓦赤燕ニ在リ、惟貨賂ヲ
事トス、樞ヲ幕長トシ之ヲ分及ス、樞一切拒絕シ、
官ヲ辭シテ去ル、三年、余玠ヲ四川ノ制置使ト

ス、時ニ蜀地殘破ス、玠至テ大ニ弊政ヲ更メ、兵ヲ屯シ糧ヲ聚メ、必守ノ計ヲ爲ス、蜀民始テ安土ノ心アリ、蒙古ノ耶律楚材卒ス、乃馬真氏制ヲ稱シ、奥都剌合蠻政ヲ專ニシ、事ヲ用ヰルヲ憤リ、疾ヲナシテ卒ス、楚材相トナリ、毎ニ生民ノ休慼ヲ陳ス、辭色懇切ナリ、太宗曰ク、汝又百姓ノ爲ニ哭セント欲スルカ、楚材毎ニ言ス、一利ヲ興スハ一害ヲ除クニ如カス、一事ヲ生スルハ一事ヲ減スルニ如カスト、人以テ名言トス、余玠釣魚山ニ城キ徙テ之ニ治ス、釣魚山ハ蜀口形勝ノ地ナリ、六

年、蒙古定宗蒙古主貴由立ツ、窩濶台ノ子ナリ、八年、蒙古主貴由卒ス、后斡兀立海迷失制ヲ稱ス、十一年、蒙古憲宗蒙古主蒙哥立ツ、拖雷ノ長子ナリ、寶祐元年、余玠ヲ召シ還ス、人アリ玠ニ求メテ得ス、遂ニ玠ヲ譖ス、帝之ニ惑ヒ召シ還ス、玠自安ンセス、藥ヲ仰キテ卒ス、蜀人悲マサルハトシ、三年、蒙古ノ忽必烈許衡ヲ徵シテ京兆提學トス、衡幼ニシテ俊偉ナリ、姚樞ニ從テ學フ、大ニ得ル所アリ、嘗テ曰ク、綱常ハ一日モ天下ニ込カルヘカラス、上ニ在ル者之ニ任セスハ、下ニ在ル

者ノ任ナリ、五年、蒙古主道ヲ分チテ入寇ス、明
合州城下、開慶元年、蒙古ノ忽必烈兵ヲ將井テ
江淮ヲ渡リ、鄂州ヲ圍ム、賈似道ヲ右丞相兼樞密
使トシ、漢陽ニ軍シテ鄂ヲ援ク、似道蒙古ニ和ヲ
乞フ、忽必烈許サス、會、蒙古主ノ計ヲ聞テ引キ還
ル、鄂州圍解ク、景定元年、蒙古世祖忽必
烈中統元年、賈似道
諸路ノ大捷ヲ奏ス、和ヲ乞ヒ臣ト稱スル事ヲ匿
ス、帝之ヲ信シ、賞賚甚厚シ、蒙古ノ忽必烈立ツ、憲
宗ノ同母弟ナリ、蒙古學士郝經ヲシテ來リテ好
ヲ求メシム、賈似道經至リ、己和ヲ乞フ事ノ泄レ

シコトヲ恐レテ、之ヲ眞州ニ幽ス、四年、榷場ヲ
樊城ニ置ク、呂文德蒙古ノ請ニ從テ之ヲ置ク、外
ハ互市ヲ通シ、内ハ堡ヲ築ク、蒙古又第二堡ヲ白
鶴ニ築ク、文德始テ賣ラル、ヲ悟リ、自咎メテ曰
ク、國家ヲ悞ル者ハ我ナリト、因テ病テ卒ス、五
年、蒙古至、蒙古入テ燕ニ都ス、帝崩ス、太子禩即位
ス、度宗皇帝、諱ハ祺、榮王與芮ノ子、咸淳元年、賈
似道ニ太師ヲ加フ、帝稱シテ師臣ト曰フ、朝臣皆
稱シテ周公トス、似道君ヲ要シテ去ルヲ求ム、帝
手詔シテ之ヲ起コス、三年、蒙古ノ許衡病テ還

ル、安童ヲ右丞相トス、賈似道第ヲ西湖ノ葛嶺ニ
賜、リ、樓臺亭榭ヲ起シ、日ニ淫樂ヲ肆ニス、邊事
ヲ言フ者アレハ輒貶斥セラレ、一日帝問、襄陽
ノ圍已ニ三年奈何セン、似道對テ曰、北兵已ニ
退久、何人カ之ヲ言フ、帝曰、女嬪之ヲ言フ、似道
其人ヲ誣殺ス、是ニ由テ邊事ヲ言フ者ナシ、七
年、蒙古道ヲ分チテ嘉定諸路ニ寇ス、是歲蒙古國
改
九年、樊城陷ル、守將范天順牛富之ニ死ス、
十年、帝崩ス、子嘉國公熈卽位ス、太后謝氏朝ニ臨
ミ、詔ヲ稱ス、帝年四歲、太后
理宗ノ后元ノ史天澤伯顏大舉

シテ入寇ス、元主之ニ命シテ曰、古ノ善ク江南
ヲ取ル者ハ曹彬一人ノミ、汝不殺ヲ能クセハ我、
曹彬ナリ、陸秀夫ヲ參議淮東制置司事トス、李庭
芝之ヲ辟シテ幕下ニ置ク、元ノ伯顏陽邏堡ヲ拔ク、
夏貴師ヲ棄テ、走リ還ル、伯顏遂ニ阿朮ニ會シ、
鄂州ヲ下シ、兵ヲ引テ東下ス、朝廷大ニ懼レ、賈似
道ニ詔シテ諸路ノ軍馬ヲ督セシム、是ニ於テ似
道始テ府ヲ臨安ニ開ク、恭宗皇帝諱ハ熈、度
宗ノ次子、德
祐元年、呂師夔江州ヲ以テ元ニ降ル、師夔宗室ノ
女二人ヲ盛飾シテ伯顏ニ獻ス、伯顏怒リテ曰、

吾天子ノ命ヲ奉レテ義師ヲ興ス、女色以テ我ヲ
移サントスルカ、賈似道敵ニ劉整アルヲ畏レテ敢
テ發セス、其死スルヲ聞テ、乃出テ、蕪湖ニ次ル、
夏貴兵ヲ引テ之ニ會ス、汪立信書ヲ似道ニ與ヘ
テ曰ク、今天下ノ勢十二八九ハ去ル、而ルニ君臣
宴安酣歌シ湖山ニ嘯傲ス、折衝亦難カラスヤ、似
道書ヲ地ニ抵テ曰ク、瞎賊敢テ爾ル、立信微孫虎
臣夏貴ノ師江上ニ潰ユ、賈似道揚州ニ奔ル、元盡
ク江淮ヲ陷ル、張世傑兵ヲ將井テ入衛ス、遂ニ饒
州ヲ復ス、先ニ饒州陷ル、唐震江西提刑文天祥兵
江萬里之ニ死ス、

ヲ起シテ勤王ス、湖南提刑李芾兵ヲ遣リテ入援
ス、賈似道罪アリテ免ス、陳宜中本、似道ニ附ス、是
ニ至リ似道ヲ劾シテ卽解ク、江淮招討使汪立信
軍ニ卒ス、立信賈似道カ軍潰エ、守臣皆降遁スト
聞テ、嘆ミテ曰ク、吾今日猶宋土ニ死スルヲ得タ
リト、賓僚ト置酒シテ訣レ、吭ヲ扼シテ卒ス、賈似
道ヲ循州ニ放ツ、似道既ニ免ス、到ル處納レス、遠
竄セラル、日、鄭虎臣其父ノ仇ナルヲ以テ、監押
シテ漳州ニ至リ、厠上ニ卽キ其胸ヲ拉シテ之ヲ
殺ス、元ノ伯顏江ヲ渡リ、兵ヲ分チテ東下ス、二

年五月己後端元ノ阿里海潭州ヲ破ル、知州事李
宗景炎元年ノ湖南ノ軍皆陷ル、吉王昱ヲ進封レテ
帝之ニ死ス、益王トシ、信王昺ヲ廣王トス、文天祥二王ニ命シ
閩廣ニ鎮シテ、興復ヲ圖ラント乞フ、太后之ニ從
フ、元ノ伯顔進ミテ皋亭山ニ軍ス、文天祥張世傑
城ニ背テ一戰セント請フ、陳宜中許サス、太后ニ
白シ、使ヲ遣リテ璽ヲ奉シテ降ル、世傑去テ海ニ
入ル、文天祥元ノ軍ニ使ス、伯顔之ヲ執ス、伯顔人
ヲ遣リテ臨安ニ入り、府庫ヲ封シ、圖籍符印ヲ收
ム、益王廣王婺州ニ走ル元ノ范文虎之ヲ追フ、二

王遂ニ温州ニ走ル、伯顔臨安ニ入り、帝及皇太后
全氏福王等ヲ以テ北去ス、文天祥元ノ軍ヨリ亡
ケテ海ニ浮ヒ温州ニ入ル、帝北行シテ瓜州ニ至
ル、李庭芝姜才ト涕泣シテ將士ニ誓ヒ、出テ之ヲ
奪ハントス、夜元ノ軍ヲ擣ツ、克クス、益王福州ニ
即位ス、遙ニ帝ニ尊號ヲ上ル、度宗ノ淑妃楊氏ヲ
皇太妃トシ、同シク政ヲ聽ク、左丞相李庭芝保康
軍、承宣使姜才名ニ赴キ、海ニ入りテ、泰州ニ至ル、
元ノ阿木追テ之ヲ圍ム、庭芝病テ戰フコト能ハ
ス、裨將門ヲ開キテ降ル、庭芝才執ヘラル、阿木皆

之ヲ殺ス、元ノ軍道ヲ分チテ閩廣ニ寇ス、陳宜中
張世傑帝ヲ奉シテ海ニ航シ、泉州ニ至ル、蒲壽庚
亂ヲ作ス、帝潮州ニ走ル、元人興化軍ニ入ル、知軍
陳文龍ヲ降サント欲ス、文龍其腹ヲ指シテ曰ク、此
皆節義文章ナリ、卒ニ屈セスシテ死ス、帝惠州ニ
次ル、使ヲ遣リ表ヲ奉シテ降ヲ元ニ請ス、端宗
皇帝諱ハ昞、度宗ノ長子景炎二年、陸秀夫ヲ同簽書樞密院
事トス、時ニ海濱ニ播越ス、庶事疏略ナリ、獨秀夫
儼然トシテ笏ヲ正シクスル治朝ノ如シ、或ハ時
ニ淒然トシテ泣下リ、衣盡ク濕ス、元ノ將劉深、淺

灣ヲ襲フ、帝井澳ニ走ル、颶風舟ヲ壞ル、帝溺レテ
幾ト救ハレス、遂ニ驚疾ヲ得タリ、遂ニ謝女峽ニ
奔ル、三年五月己未、帝崩、帝碇州ニ崩ス、年十一、衛
王即廣王即位ス、年八、時ニ張世傑政ヲ秉リ、陸秀夫
之ヲ助ク、匆遽流離中ト雖、猶日ニ大學章句ヲ書
シテ勸講ス、帝新會ノ厓山ニ遷ル、張世傑厓山ハ
天險ナリトシ、帝ヲ奉シテ移駐ス、元ノ張弘範、文
天祥ヲ五坡嶺ニ執ス、天祥死センド請フ、許サス、
禮シテ舟中ニ置ク、帝昺度宗末子、祥興二年、元ノ
張弘範厓山ヲ襲フ、張世傑力戰シテ之ヲ禦ク、弘

範世傑ノ甥韓ヲ得タリ、之ヲシテ世傑ヲ招カシム、世傑從ハス、弘範又文天祥ヲシテ書ヲ爲リテ招カシム、天祥曰ク、吾、父母ヲ扞クコト能ハス、乃、人ニ父母ニ叛クヲ教ヘンヤ、張世傑元ノ張弘範ト厓山ニ戰フ、兵潰シ、陸秀夫帝ヲ負テ海ニ赴テ死ス、世傑兵ヲ收テ海陵山ニ至ル、舟覆テ死ス、宋ハ已、文天祥燕ニ至ル、張弘範之ヲ降サント欲ス、屈セス、元人之ヲ囚フ、

元紀 姓ハ奇渥温氏蒙古部ノ人、燕ニ都ス、

世祖皇帝 諱ハ忽必烈、太祖子、拖雷ノ次子、至元十九年、宋ノ少保

樞密使信國公文天祥ヲ殺ス、初、天祥燕ニ在リ、丞相博羅之ヲ詰ルコト數條、天祥屈セス、遂ニ燕京ノ柴市ニ殺サル、刑ニ臨ミ、從容トシテ吏卒ニ謂テ曰ク、吾事畢ルト、南向シ拜シテ死ス、二十二年、太子真金卒ス、太子仁孝恭儉ナリ、江西ノ行省歲課ノ羨鈔四十七萬貫ヲ獻ス、太子怒テ曰ク、朝廷但汝等ニ百姓ヲ安セシム、百姓安クハ錢糧何ソ不足ヲ患ヘンヤ、盡之ヲ却ク、時ニ帝春秋高シ、御史內禪ヲ請フ、太子聞テ憂懼シテ卒ス、二十五年、徵理司ヲ置キ、百司倉庫ノ財穀ヲ鈎考ス、又

使ヲ遣シ、諸路ノ錢穀ヲ鈎考ス、二十六年、福建、
叅知政事魏天祐、宋ノ江西、招諭使知信州謝枋得
ヲ執ヘテ燕ニ至ル、枋得病テ憫、忠寺ニ遷ル、留夢
炎藥ヲ米飯ニ雜ヘテ持テ進メシム、枋得怒テ曰
ク、吾死ヲ願フ、汝乃我ヲ生ケント欲スルカ、之ヲ
地ニ棄テ、食ハスレテ死ス、二十八年、桑哥罪ヲ
以テ免ス、桑哥錢穀ヲ鈎考シ、天下騷動ス、趙孟頫
奉御徹里ニ謂テ桑哥ノ罪惡ヲ帝ニ言ハシム、帝
漸悟ル、時ニ言者益衆シ、遂ニ臺省ニ詔シ、相與ニ
之ヲ辨駁ス、桑哥辭屈ス、遂ニ官ヲ免シ、其家ヲ藉

ス、珍寶內藏ノ半アリ、尋テ伏誅ス、三十一年、帝
崩ス、皇孫鐵木耳上都ニ即位ス、成宗皇帝諱ハ
耳世祖ノ孫、太子
真金ノ第三子元貞元年、陝西旱饑ス、行省右丞
許宸命ノ下ルヲ俟タスレテ之ヲ賑ス、命モ亦尋
テ下ル、大德十一年、帝崩ス、右丞相阿忽魯等謀
テ皇后ヲ奉シテ朝ニ臨ミ、安西王攝政ス、右丞相
哈刺哈孫懷寧王海山ヲ漠北ニ及、弟愛育黎拔力
八達ヲ懷州ニ迎フ、愛育黎拔力八達至リ、阿忽魯
等ヲ誅ス、懷寧王上都ニ至リ、皇后伯岳吾氏ヲ廢
殺シ、安西王阿難答及諸王ヲ誅シ、遂ニ即位ス、愛

育黎拔力八達ヲ立テ皇太子トス、武宗皇帝諱海山、成宗ノ兄、答刺麻八剌ノ長子、至大元年、阿沙不花ヲ右丞相トス、阿沙不花嘗テ帝ノ容色日ニ悴スルヲ見テ、色食ヲ節スルヲ請フ、帝悦ヒ因テ酒ヲ進ム、阿沙不花謝シテ曰ク、臣陛下ノ飲ヲ節スルヲ欲ス、而ルニ反リテ之ヲ勸メハ、臣カ言陛下ニ信ナラサルナリ、四年、帝崩ス、皇太子卽位ス、仁宗皇帝諱愛育黎拔力八達、武宗ノ同母弟、延祐元年、復齊履謙ヲ國子司業トス、履謙吳澄ト俱ニ國學ニ在リ、既ニシテ罷メ去ル、學制稍廢ス、是ニ至リテ復司業トス、三年、

趙孟頫ヲ翰林學士承旨トス、之ヲ間スル者アリ、帝曰ク、子昂ハ世祖簡拔シテ述作ヲ典ラス、ム、何ッ歟々センヤ、七年、帝崩ス、太子卽位ス、英宗皇帝諱仁宗ノ太子、至治二年、拜住ヲ右丞相トス、佛教天下ヲ治ムヘシト言フ者アリ、帝拜住ニ問フ、對テ曰ク、清淨寂滅ハ自治ムルハ可ナリ、天下ヲ治ルニ仁義ヲ捨テハ綱常亂レン、三年、御史大夫鐵失帝ヲ弑ス、初鐵失、木迭兒奸貪ナルヲ以テ官爵ヲ追奪シ、其家ヲ籍沒ス、鐵失ハ奸黨ナリ、自安シセス、帝ヲ南坡ニ弑シ、右丞相拜住ヲ殺ス、諸王

按梯不花等、晋王也、孫鐵木兒ヲ北邊ヨリ迎フ、王
龍居河ニ即位ス、鐵失也先帖木兒等伏誅ス、泰
定皇帝諱ハ也孫鐵木兒、英宗ノ叔、文宗帝ノ為、泰
定皇帝ニ廟謚ヲ立テス、世止、泰定帝ト稱ス、
定元年、子阿速吉ハ皇太子トス、致和元年、文宗
圖帖睦爾、帝上都ニ崩ス、簽樞密院事、燕帖木兒謀
逆シ、中書省御史臺臣烏伯都刺等ヲ執ヘテ獄ニ
下シ、遂ニ使ヲ遣リテ懷王圖帖睦爾ヲ江陵ニ迎
フ、皇太子阿速吉ハ上都ニ即位ス、時ニ九年九歲、元
ヲ天順ト改ム、
懷王帝位ヲ襲キ兵ヲ以テ上都ヲ陷ル、帝終ル所
ヲ知ラス、周王和世球ヲ漠北ニ迎ス、明宗皇帝

諱ハ和世球、天歷二年、周王和世球和寧ノ北ニ帝
武宗ノ長子ト稱ス、燕帖木兒ヲ太師トス、周王旺忽察都ニ次
ル、圖帖睦爾入見ス、王暴卒ス、圖帖睦爾上都ニ襲
位ス、文宗皇帝諱ハ圖帖睦爾、至順三年、帝上都
ニ崩ス、明宗ノ子、郕王懿璘質即位ス、在位二十五
日ニシテ薨ス、年七歲、寧宗ト號ス、順皇帝諱ハ妥懽
帖睦爾、明宗ノ長子、元統元年、妥懽帖睦爾上都ニ即位ス、至元
元年、唐其勢反シテ伏誅ス、時ニ唐其勢父撒敦ニ
代リテ左丞相トナル、右丞相伯顔カ獨政ヲ秉ル
ヲ忿リテ、潛ニ異心ヲ蓄ヘ、勇士ヲ率井テ宮ニ突

入セリ、掩捕シテ之ヲ誅ス、伯顔皇后伯牙吾氏ヲ
弑ス、六年、伯顔罪アリ、南恩州ニ竄セラレ、道ニ
死ス、伯顔既ニ唐其勢ヲ誅シ、獨權ヲ專ラニシテ自
恣ナリ、漸異謀アリ、帝怒リテ之ヲ逐ハントス、遂ニ
脱々世傑班等ト謀ヲ合セ、伯顔ノ罪狀ヲ數メテ
之ヲ出ス、詔ス皇考恨ヲ飲テ上賓ス、咎歸スル所
アリト、遂ニ文宗ノ廟主ヲ廢シ、太皇太后文宗ノ
號ヲ削リテ東安州ニ遷ス、太后尋テ崩ス、燕帖古
思文宗ノ子ヲ高麗ニ放ツ、道ニ害セラレ、至正四
年、脱々罷メラル、阿魯圖ヲ右丞相トス、時ニ一人

ヲ刑部尚書トセントス、或其柔軟ナルヲ言フ、阿
魯圖曰ク、僧子ヲ選フ強壯ノ人ヲ用ヰルヘシ、尚
書ハ人ヲ枉ケ法ヲ壞ラサルヲ取ル、何ノ強壯ノ
者ヲセン、十一年、潁州ノ劉福通蕭縣ノ李ニ羅
田、徐壽輝等ノ兵起ル、先ニ四方盜賊蜂起ス、丁夫
ヲ發シ、河決ヲ修ルニ及テ民心益愁怨シテ亂ヲ
思フ、賴盜皆紅巾ヲ號トス、壽輝鄆水及黃州路ヲ
攻陷シ、帝ト稱ス國ヲ天完ト號ス、十三年、秦州
張士誠ノ兵起リテ高郵ニ據リ、誠王ト自稱ス、知
府李齊屈セスレテ死ス、十四年、帝自龍舟ヲ内

苑ニ製ス、精巧人意ニ絶出ス、帝淫戲ヲ樂ミ、群僧禁中ニ出入シテ、醜聲穢行外ニ著聞ス、十五年、朱元璋兵ヲ起シテ、滁州ヲ攻下シ、又和陽ヲ下ス、馮國用ノ謀ヲ用井テ、江ヲ渡リ金陵ヲ取り、之ニ據ラントス、愈通海衆ト船ヲ率井テ來降ス、乃チ舟ヲ引テ牛渚ニ達ス、遂ニ采石ヲ拔ク、明年金陵ニ克ツ、集慶路ヲ應天府トス、十八年、朱元璋婺州ヲ取ル、改テ寧越府トス、知府王宗顯ニ命シテ郡學ヲ開ク、葉儀、宋濂、五經師タリ、元璋既ニ寧越ヲ撫定ス、諸將ニ諭シテ曰ク、克城ハ武ヲ以テスト

雖安民ハ必仁ヲ以テス、將タル者不殺ヲ心トセハ、國家ノ福ノミニ非ス、己モ亦福ヲ蒙ラシ、十九年、方國珍先ニ兵ヲ起ス、溫台慶元ノ三郡ヲ以テ朱元璋ニ附ス、天完ノ將陳友諒、其主徐壽輝ヲ江州ニ徙シ、漢王ト自稱ス、明年壽輝ヲ弑シテ帝ト稱ス、二十年、復、搠思監ヲ右丞相トス、搠思監官者朴不花ト相表裏シ、四方ノ警報、將士ノ功狀、皆壅キテ上聞セス、論者謂フ、元ノ凶フルハ二人ノ罪居多ナリト、二十二年、明王珍天完ノ將、先ニ成都ニ據ル、隴蜀王ト自稱ス、明年帝ト稱ス、二十三年、張士誠ノ將呂珍

安豐ニ入リテ、其城ニ據ル、朱元璋之ヲ擊走ス、漢
 主陳友諒武昌ニ破レテ洪都ヲ圍ム、朱元璋諸將
 ヲ帥井テ之ヲ討シ大ニ鄱陽湖ニ戰ス、友諒敗死
 ス、其將子理ヲ武昌ニ立ツ、明年朱元璋降ル、湖廣江西皆平ラク、
 二十四年、朱元璋國號ヲ建テ、吳ト曰フ、李羅帖
 木兒兵ヲ舉ケテ闕ヲ犯シ、右丞相搠思監ヲ殺ス、
 太子出奔ス、明年李羅帖木兒等伏誅ス、二十七年、吳ノ兵平
 江ニ克チ、張士誠ヲ執ヘテ歸ル、又方國珍ヲ討シ
 之ヲ降ス、吳ノ兵山東ノ郡縣ヲ徇ヘテ皆之ヲ下
 ス、

明紀 姓ハ朱氏、先世沛ニ家ス、句容ニ徙ル、再
 泗州ニ徙ル、洪武應天ニ都ス、永樂順天
 都ニ遷ス、

太祖皇帝 諱ハ元璋、字ハ國瑞、洪武元年、吳ノ相國李善長吳
 王ヲ尊テ皇帝トス、國ヲ明ト號ス、太祖年十七、孤
 ニレテ依ル所ナシ、皇覺寺ニ入リテ僧トナル、初、
 郭子興ニ濠州ニ從ヒ、戰ヘハ輒勝ツ、滁州ヲ下シ、
 李善長ヲ得テ大ニ之ヲ悦ブ、是ニ至リテ帝位ニ
 即ク、元ヲ洪武ト建ツ、善長ヲ左丞相トシ、徐達ヲ
 右丞相トス、妃馬氏ヲ立テ、皇后トス、郭子興ノ
 撫女ナリ、帝后族ヲ官セント欲ス、后謝シテ曰ク、

爵祿ヲ外家ニ私スルハ法ニ非ス、力辭シテ止ム、
福建廣東西山東悉平ラク、乃徐達ニ命シ、直ニ元
ノ都ヲ取ラシム、常遇春舟師ヲ率ヰテ遼ハ、元ノ
師風ヲ望テ奔潰ス、元主后妃太子ト北上都ニ奔
ル、達等元都ニ入ル、應天ヲ南京トシ、開封ヲ北京
トス、始テ吏戸禮兵刑工ノ六部ヲ置ク、徐達太原
ニ克ツ、山西平ク、二年、徐達奉元ニ克ツ、常遇春
鳳翔ニ克ツ、又開平ニ克ツ、元主和林ニ奔ル、遇春
軍ニ卒ス、遇春常ニ自言ス、能ク十萬ノ衆ニ將トシ
テ天下ニ横行セシト、軍中常十萬ト稱ス、帝曰ク、

平定ノ功ハ遇春十カ八九ニ居ル、陝西平ク、帝曰
ク、國ヲ治ムルハ教化ヲ先トス、天下府州縣ニ皆
學ヲ立ツ、三年、徐達李文忠ヲ遣リテ北伐ス、大
ニ元ノ擴廓帖木兒ヲ破ル、元帝應昌ニ殂ス、李文
忠應昌ニ克ツ、元ノ皇孫買的里八剌ヲ獲テ京師
ニ送ル、封シテ崇禮侯トス、大ニ功臣ヲ封ス、四
年、湯和重慶ヲ下ス、夏ノ明昇降ル、蜀地平ラク、
五年、翰林院待制王禕ヲ雲南ニ使ス、元ノ梁王把
匝剌瓦爾密雲南ニ鎮ス、禕往テ招諭ス、會脱々元
主ノ所ヨリ來ル、梁王禕ヲ出シテ見エシム、脱々

諱ヲ屈セントス、諱叱シテ曰ク、天既ニ元ノ命ヲ訖ヘリ、燭火餘燼取テ日月ト明ヲ争ハンヤ、屈セスレテ自刎ス、八年、誠意伯劉基卒ス、基帝ヲ佐ケテ天下ヲ定ム、暇アレハ王道ヲ敷陳ス、帝張子房ニ比ス、平遙訓導業居昇ヲ獄ニ下レ之ヲ殺ス、時ニ災異ヲ以テ直言ヲ求ム、居昇上書シテ封ヲ分ツノ太多、刑ヲ用ヰルノ太繁、治ヲ求ムルノ太急ナルヲ論ス、帝大ニ怒リテ獄ニ下ス、瘐死ス、十三年、胡惟庸謀反ス、惟庸倭寇ヲ招キ、元ニ臣ト稱シ、兵ヲ請テ外應セシム、事未發セズ、會、惟庸ノ

子車ヨリ墜チテ死ス、惟庸車夫ヲ殺ス、帝怒ル、惟庸懼シ、陳寧涂節等ト謀リテ事ヲ起ス、既ニシテ節事ノ成ラサルコトヲ知リテ變ヲ上ス、惟庸伏誅ス、節モ亦誅セラレ、帝惟庸ノ亂ニ懲リテ、遂ニ丞相ヲ罷メ、政ヲ六部ニ歸ス、宋濂ヲ茂州ニ安置ス、道ニ卒ス、濂太子ニ傳タルコト十餘年、言動必禮法ヲ以テス、是ニ至リテ其孫胡惟庸ニ黨シテ刑セラレ、濂モ械セラレテ京ニ至ル、帝怒テ之ヲ誅セント欲ス、皇后諫ム、帝意解ク、十四年、傅友德曲靖ヲ下ス、雲南平ラク、十五年、大理寺卿李

仕魯ヲ殺ス、帝頗釋氏ヲ好ミ、爲ニ職官ヲ立ツ、仕魯數之ヲ論スレトモ聽カス、遂ニ駭骨ヲ乞ヒ、帝前ニ置ク、帝大ニ怒リ、武士ニ命シテ之ヲ搏搏ス、立トコロニ死ス、皇后馬氏崩ス、后疾亟ナリ、帝言ハント欲スル所ヲ問フ、后曰ク、願クハ陛下賢ヲ求メ諫ヲ納レ、終ヲ慎ム始ノ如クセヨ、十八年、太傅魏國公徐達卒ス、帝嘗テ達ヲ稱シテ曰ク、矜ラス伐ラス、婦女財帛愛取スル所ナク、中正無疵ナルハ大將軍一人ノミ、二十一年、解縉ヲ監察御史トス、縉七歳ニシテ文ヲ能クス、十八ニ

シテ進士ニ登ル、封事萬言ヲ上ル、皆人ノ言ハサル所ナリ、帝其識ヲ嘉ス、二十三年、韓國公李善長ニ死ヲ賜ス、先ニ善長ノ私親丁珉、怨逆ノ罪ヲ案セラル、善長ノ弟胡惟庸ニ交通スト言フ、詞善長ニ連ル、遂ニ死ヲ賜ス、二十五年、皇太子標卒ス、懿文ト謚ス、孫允收ヲ立テ皇太孫トス、方孝孺ヲ漢中、教授トス、帝曰ク、此異人ナリ、留メテ子孫ノ爲ニ太平ヲ輔ケレメン、二十六年、鄭濟ヲ表旌レテ左庶子トス、浦江ノ鄭氏十世同居ス、子孫孝謹ナリ、帝嘗テ鄭濂ニ治家ノ道ヲ問フ、對テ曰

ク婦人ノ言ヲ聽カサルノミ、三十一年、帝崩ス、
帝春秋高ク、猜忌多シ、傳友德、馮勝ニ死ヲ賜ヒ、王朴ヲ殺ス、皆其罪ニ非ス、太孫允炆、即位ス、方孝孺ヲ名テ翰林學士トス、恭閔惠皇帝、諱ハ允炆、太祖ノ子、建文元年、燕王棣來朝ス、陞ニ登孫懿、文太子ノ子、御史曾鳳韶其不敬ヲ劾ス、帝曰ク、至親ナリ、問フコト勿レ、時ニ諸王叔父ノ尊ニ憑リテ不遜多シ、齊、秦、黃子澄、漢七國ヲ平クル事ヲ進ム、遂ニ周王ヲ廢シ、代王ヲ幽シ、岷王ヲ庶人トス、齊王湘王並ニ謀逆ヲ以テ伏誅ス、燕王國ニ還リ、兵ヲ舉テ反ス、靖難ト號ス、耿炳文ヲ遣リテ之ヲ討

ス、炳文滹沱河ニ敗績ス、李景隆ヲ以テ之ニ代ス、二年、李景隆白溝河ニ敗績ス、棣進ミテ德州ヲ陷ヒ、轉シテ濟陽ヲ掠ム、教諭王省明倫堂ニ坐シ、謂テ曰ク、堂ヲ明倫ト名ツク、今日君臣ノ義何如シ、大哭シテ柱ニ觸レテ死ス、都督盛庸參政鐵鉉、力ヲ悉クシテ防禦シ、大ニ燕ノ衆ヲ挫ク、棣水ヲ城中ニ灌ク、鉉詐リ降り、棣ヲ誘ヒテ城ニ入レ、鐵板ヲ下スニ、中ラス、棣奔テ營ニ歸ル、庸、鉉等遂ニ德州ヲ復ス、三年、盛庸棣ヲ夾河ニ敗リ、其將潭淵ヲ斬ル、諸將皆帝ノ詔シテ朕ニ叔父ヲ殺スノ

名ヲ負ハスコト勿レト曰フヲ以テ、相顧テ敢テ
一矢ヲ發セズ、遂ニ敗レテ德州ニ還ル、四年、徐
輝祖ニ命シ、師ヲ帥井テ隸ノ兵ヲ山東ニ禦カシ
ム、官軍連ニ隸ノ兵ヲ淮北ニ敗ル、燕人懼ル、帝訛
言ヲ聞テ輝祖ヲ召シ、還ス、隸ノ兵淮ヲ渡リ揚州
ヲ陷ル、遂ニ江ヲ渡テ京師ヲ犯ス、谷王橐及李景
隆金川門ヲ開テ迎降ス、都城陷ル、宮中火起ル、帝
終ル所ヲ知ラス、隸自立シテ皇帝トナル、建文ノ
年號ヲ革除シ、洪武三十五年ト稱ス、兵部尚書齊
泰太常卿黃子澄文學博士方孝孺ヲ殺シ、皆其族

ヲ夷ス、黨ニ坐シテ死スル者數百人、孝孺衰經レ
テ闕下ニ悲號ス、帝勞シテ曰ク先生自苦ムコト
勿レ、朕周公ノ成王ヲ輔クルニ效ハント欲スル
ノミ、孝孺曰ク、成王安ニカ在ル、帝曰ク、自焚死ス、
曰ク、何ソ其子ヲ立テサル、帝曰ク、此朕ノ家事ナ
リ、因ニ筆ヲ授ケテ即位ノ詔ヲ艸セシム、孝孺筆
ヲ投シテ哭シ且罵ル、帝大ニ怒リ、命シテ九族ヲ
夷ス、

漢史一斑 第三卷 終

K110,22-5-3

漢書
卷三

文選